

中央教育審議会 学校における働き方改革特別部会

子どもたちも、教職員も元気な学校づくり に向けた提案

2017年7月11日

妹尾 昌俊

教育研究家、学校マネジメントコンサルタント

文部科学省 学校業務改善アドバイザー

NPO まちと学校のみらい 理事

senoom879@gmail.com

<http://senoom.hateblo.jp>

本日の内容

1. ファクトから見た現状の課題認識の共有

★学校はだれが、どのくらい忙しいのか(Who? How busy?)

★忙しいとしても、それはよくないことなのか?(So what?)

2. 今後の国・地方教育委員会等における施策の提案

★どうしていけばよいのか? 何から始めるか?
(What and How?)

1. ファクトから見た現状の課題認識の共有

★学校はだれが、どのくらい忙しいのか(Who? How busy?)

★忙しいとしても、それはよくないことなのか?(So what?)

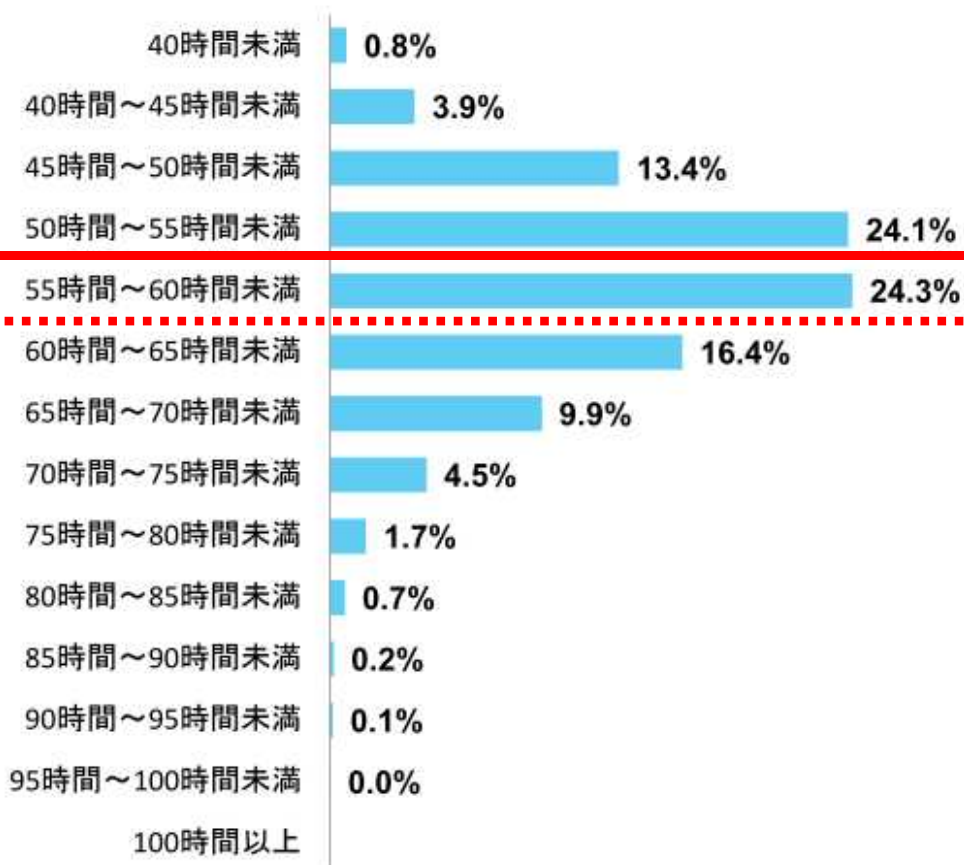
2. 今後の国・地方教育委員会等における施策の提案

★どうしていけばよいのか? 何から始めるか?

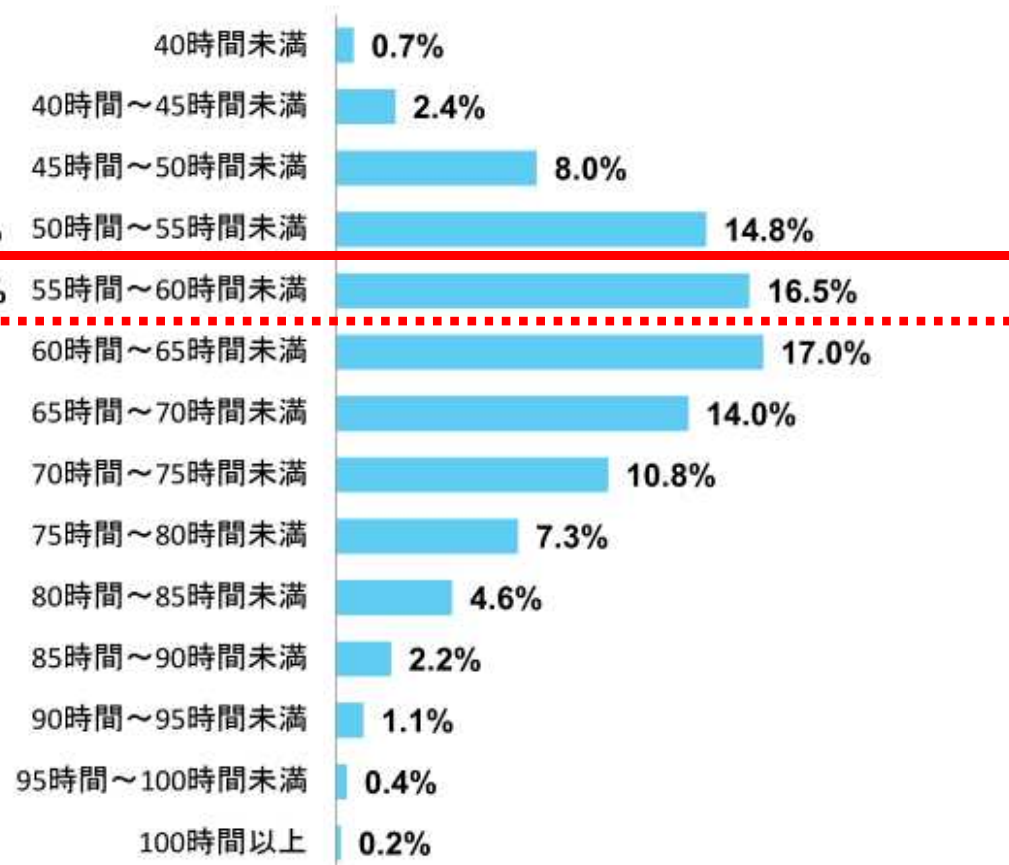
(What and How?)

小学校教員の33.5%、中学校教員の57.7%が週60時間以上勤務(過労死ライン超え) 自宅持ち帰りも含むと、この数字は小学校教諭の57.8%、中学校教諭の74.1%か？

1週間の学内総勤務時間(小学校・教諭)



1週間の学内総勤務時間(中学校・教諭)



※「教諭」について、平成28年度調査では、主幹教諭・指導教諭を含む。

※1週間当たりの正規の勤務時間は38時間45分。

※上記グラフは、勤務時間から本調査の回答時間(小学校64分、中学校66分)を一律で差し引いている。

文科省「教員勤務実態調査」(2016年実施)

ある中学校の記録。200時間近い残業の人も(≒平日8時間、土日3時間の残業)。

資料3 名古屋市立A中学2014年度月別勤務時間外在校時間記録 (分単位は切り捨て)

職・所属	氏名	分掌教科	部活	2014												2015			合計	月平均
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
1	校長			112	99	57	70	18	63	62	58	55	59	60	71	784	65			
2	教頭			187	137	116	117	56	110	85	89	85	93	99	132	1306	109			
3	主幹教諭	社		134	93	64	79	26	83	94	77	75	73	80	92	970	81			
4	教務 2	体		149	108	112	92	27	102	133	84	96	95	106	118	1222	102			
5	校務 2	国	ソフトテニス	180	148	142	147	100	156	143	110	140	106	107	152	1631	136			
6	1-A	社	バレーボール	152	125	139	108	49	142	165	123	120	96	147	99	1465	122			
7	1-B	体	剣道	37	17	21	27	1	23	22	15	65	22	62	41	353	29			
8		理講師	園芸	54	61	64	73	6	80	53	35	45	55	47	31	604	50			
9	1-C	英		58	39	52	40	1	37	48	42	43	27	45	35	467	39			
10	1-D	国	バスケ 男子	223	185	172	175	17	181	189	128	106	131	145	87	1739	145			
11	1-E	英	卓球女子	110	91	97	104	8	111	127	92	75	71	92	83	1061	88			
12	主	技(転)	ソフトテニス	122	147	141	154	59	153	148	107	115	89	101	118	1454	121			
13	1-JK	特別支援	バスケ 男子	147	127	128	136	14	137	112	103	105	91	119	107	1326	111			
14	2-A	体	ハンドボール	160	133	101	114	52	144	115	111	126	92	108	139	1395	116			
15	2-B	社(転)	バレーボール	100	131	135	100	46	115	143	110	105	79	123	107	1294	108			
16	2-C	教	園芸	119	93	109	83	11	87	90	82	46	60	99	57	936	78			
17	2-D	音講師	バレーボール	196	179	178	150	63	169	235	179	152	147	192	142	1982	165			
18	2-E	理		39	38	33	32	1	29	33	30	21	26	32	24	338	28			
19		英		37	45	50	52	2	32	34	31	31	39	44	37	434	36			
20	主	理		46	42	35	37	3	34	42	27	24	29	40	31	390	33			
21	生指	体	バスケ 女子	118	92	104	73	59	116	81	102	94	71	74	107	1091	91			
22	2-JK	特別支援		34	24	25	23	3	16	20	15	14	15	21	19	229	19			
23	養護	講師		47	44	42	33	4	35	30	20	14	14	28	37	348	29			
24	3-A	英講師	ハンドボール	150	139	97	136	40	161	178	132	96	110	134	80	1453	121			
25		理(転)	ソフトテニス	157	195	141	175	71	183	201	161	167	127	186	127	1891	158			
26	3-B	社	サッカー(男)	182	198	109	138	27	147	147	129	109	120	141	106	1553	129			
27	3-C	国	ソフトテニス	205	221	171	180	65	198	237	174	146	130	163	137	2027	169			
28	3-D	美	卓球女子	146	153	106	140	14	126	145	111	104	103	130	79	1357	113			
29	3-E	数	バレーボール	178	158	130	112	48	160	188	130	138	117	182	104	1645	137			
30	主	数	サッカー(男)	171	170	112	127	16	135	152	129	122	126	154	103	1517	126			
31		家		42	50	23	18	0	21	22	15	15	22	22	13	263	22			
32	3-JK	特支講師	剣道	124	131	86	84	32	107	104	96	114	60	116	79	1133	94			
33	養護			45	33	25	22	55	29	33	21	13	16	21	32	345	29			
34	事務			89	53	59	59	10	41	29	50	42	47	54	90	623	52			
35						5	4	0	18	13	17	24	18	6	11	116	12			
平均の時間外在校時間(分単位切り捨て)				119	109	90	92	29	99	104	84	82	74	94	81	36742	平均90時間			

※35の教員は6月復帰

産業別1週間の労働時間の分布

社会全体や他業種と比べても、**学校の過重労働(≒長時間過密労働)**は異常

	週 35～42 時間	週 43～59 時間	週 60～69 時間	週 70～79 時間	週 80時間 以上	60時間 以上の 割合
建設業	34.4%	52.4%	8.5%	3.1%	1.5%	13.1%
製造業	46.5%	45.2%	6.1%	1.5%	0.7%	8.3%
情報通信業	47.3%	42.5%	6.6%	2.4%	1.2%	10.2%
運輸業、郵便業	33.5%	43.8%	13.5%	6.2%	3.1%	22.7%
卸売業、小売業	44.3%	42.3%	8.7%	3.2%	1.5%	13.4%
金融業、保険業	50.8%	41.8%	5.7%	0.8%	0.8%	7.4%
不動産業、物品賃貸業	48.0%	40.0%	8.0%	2.7%	1.3%	12.0%
学術研究、専門・技術サービス業	46.5%	40.3%	8.2%	3.1%	1.9%	13.2%
宿泊業	39.4%	45.5%	9.1%	3.0%	3.0%	15.2%
飲食店	33.6%	37.9%	14.7%	8.6%	5.2%	28.4%
医療業	55.3%	37.2%	4.3%	2.0%	1.2%	7.5%
社会保険・社会福祉・介護事業	63.3%	33.2%	2.2%	0.9%	0.4%	3.5%
国家公務	63.0%	28.3%	4.3%	2.2%	2.2%	8.7%
地方公務	55.5%	33.6%	5.5%	3.9%	1.6%	10.9%
学校教育	40.5%	40.5%	11.5%	4.7%	2.7%	18.9%
その他の教育、学習支援業	51.4%	37.1%	8.6%	2.9%	0.0%	11.4%
	週 約45時間 未満	週 約45～59 時間	週 約60～69 時間	週 約70～79 時間	週 約80時間 以上	約60時間 以上の 割合
小学校教諭(教員勤務実態調査)	0.8%	41.4%	40.7%	14.4%	2.7%	57.8%
中学校教諭(教員勤務実態調査)	0.7%	25.2%	33.5%	24.8%	15.8%	74.1%

「労働力調査(2016年度)」、「教員勤務実態調査(2016年実施)」をもとに作成

※週35時間以上勤務の人のみを集計対象

※小学校教諭、中学校教諭以外については、月末1週間の就業時間(「労働力調査(2016年度)」に基づく)。

※※小学校教諭、中学校教諭については、2016年実施の「教員勤務実態調査」に基づいた1週間の学内勤務時間に、平均的な自宅持ち帰り時間(週約5時間)を加えた時間。

学校(小中高)は、他業界と比べても、社会全般と比べてもはるかに“ブラック”

1. 長時間労働の蔓延

- 小学校約6割、中学校約75%が過労死ライン超え
- 高校も約半数が月およそ96時間以上残業(愛知教育大学等調査をもとに推計)
- 電通の高橋まつりさんのケース:
月105時間の残業(労基署)、月130時間超(入退館データ)
- 月120時間以上残業は、小学校で17.1%、中学校で40.6%
(教員勤務実態調査で自宅残業含めて推計)

2. 休憩時間がほとんどない、ノンストップ過密労働

- 10年以上前の2006年の教員勤務実態調査で明らかとなっていた。
この間、わたしたちは何をしてきたのだろうか？改善どころか悪化？

働き方改革って言われても・・・教職員の本音はどこにあるのか？

働き方改革？？？
オレの働き方が悪いって
言うんですか？
ほっといてください。

あきらめモードと
開き直りモード
“子どものために
一生懸命やってんだから
仕方がないでしょ！？”

宿題のチェックも、
生徒指導も、部活も、
目の前の子どもが
一生懸命だから、
かわいいから、
こっちも頑張っ
てるんです！

教員定数増えないのに
これ以上現場で
工夫しろ、頑張れ
言われてもムリでしょ？

新しい学習指導要領？
英語が増えるやつですね。
社会に開かれた
教育課程？
なんですか、それ？

**働き方改革、学校改善・業務改善で、いま、決定的に不足しているものは
教職員や教育行政職員への動機付け ⇒ 長時間労働の弊害はどこに来る？**

1. 個人レベルでは、授業準備や自己研鑽の時間が減る。

組織レベルでも学習が減る。

- ✓ 教職員個人にとっては、読書や趣味、好きなことを追求する時間などが減る ⇒ 広い意味での自己研鑽が犠牲となってしまう。
- ✓ 学校という組織、チーム単位で捉えても、個業が増え、組織的な改善や学習が進みにくくなる。
⇒その結果、さらに多忙化が進む(悪循環に)。

2. 心身ともに疲れる、病気になる。

- ✓ バーンアウトやうつ、自殺に発展するケースも。

3. 「ともかく長く働けばよい」、「仕事のためには、家庭やプライベートは犠牲にせざるを得ない」と生産性やワークライフバランスを軽視することが子どもへ影響する。(=隠れたカリキュラムのひとつ)

4. 教師が不人気職になり、質も低下。

細る自己研鑽、自己投資

「長時間労働のもたらしている最大の弊害とは、**能力開発の機会喪失である**」

(玄田有史東大教授、『働く過剰』)

■ 連合総研の2015年の調査 **教員の1日の読書時間は15～30分程度。**

■ 小学校教員が新聞を読んだり、読書したりする時間(平日の1日)は、**24.7分**

中学校教員 **23.1分**

高校教員 **33.6分**

出所:ベネッセ教育研究所「学習指導基本調査」2016年実施

ちなみに、NHKが2015年に実施した国民生活時間調査によると、勤め人の1日(平日)の新聞を読む時間は10分、雑誌・マンガ・本を読む時間は9分なので、合計約19分。

■ ある市の2016年度実施の教員向けストレスチェック調査によると、

小学校の61.5%、中学校の58.8%が

「いつもひどく疲れた」、「しばしばひどく疲れた」と回答し、

小学校の50.2%、中学校の47.1%が「いつもヘトヘトだ」、「しばしばヘトヘトだ」と回答。

■ 愛知教育大学等の調査(2015年)によると、

仕事の悩みとして「**授業の準備をする時間が足りない**」と答えた教員は、

小学校94.5%、中学校84.4%、高校77.8%。

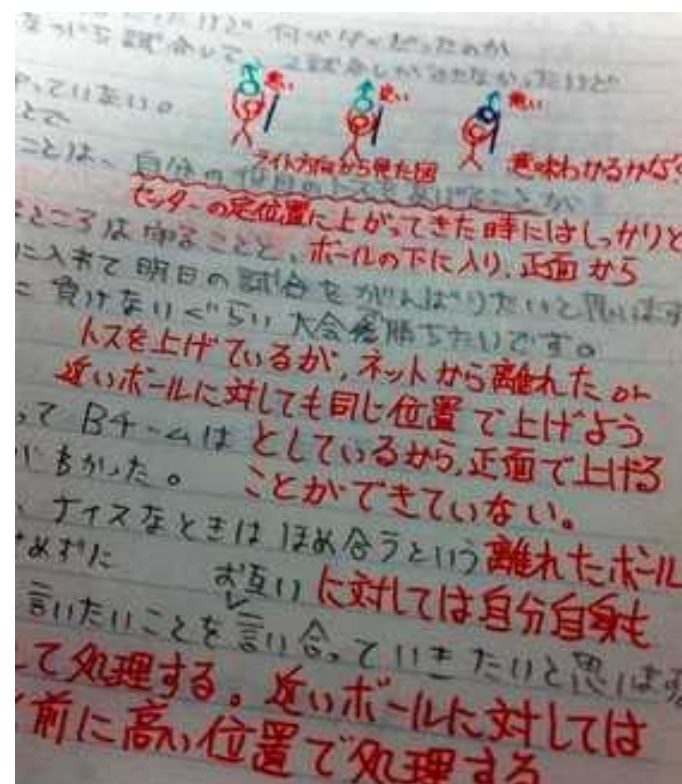
「仕事に追われて生活のゆとりがない」教員も、小学校76.6%、中学校75.3%、高校67.7%。

熱血教師の過労死

2011年6月6日(月)午前1時頃、堺市立中学校に勤務する26歳の教師、前田大仁さんが1人暮らしの自宅アパートで突然亡くなりました。虚血性心疾患でした。前田先生は「熱血先生」と慕われ、市教育委員会の教員募集ポスターのモデルにもなったこともありました。

前田先生は2年目で、2年1組のクラス担任ならびに経験のないバレー部の顧問を務めていました。理科の教科担当としてプリント等を作成するなど熱心に授業準備を行うとともに、学級通信をほぼ毎週発行するなど、教育に情熱をもってあたっていました。部活動では、部員が記入する個人別のクラブノートに励ましや助言をびっしりコメントしていました。

発症前6か月間の時間外勤務は月60～70時間前後と過労死認定基準に満たない時間しか認められませんでした。が、「相当程度の自宅作業を行っていたことが推認される」として、地方公務員災害補償基金は2014年に公務上の過労死として認定しました。



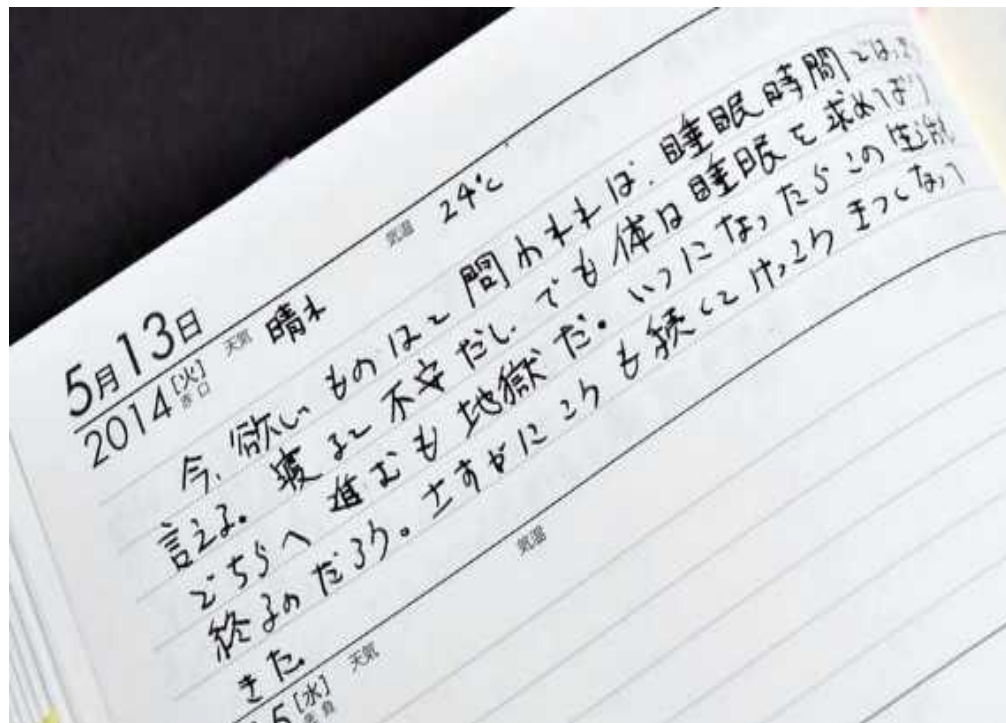
過労死や自殺する教師が後を絶たない

- 福井県若狭町立中学校の**新任教員**、嶋田友生さん(男性、27歳) 1年生の学級担任や社会と体育の教科指導をしながら、野球部の副顧問として指導にあたっていた。週末も野球部の練習などがあり、**休みは月2、3日ほどしかなく**、2014年6月に何らかの精神疾患を発症し、**10月に自分の車内で練炭自殺**した。

日記の最後には

「疲れました。迷惑をかけてしまいすみません」と書かれていたという。

4～6月の**時間外労働が月128～161時間**になっていたことなどから、地方公務員災害補償基金県支部は2015年9月、過労による公務災害と認めた。



新任として着任、2か月後に自殺

東京都新宿区立小学校の**新任教諭(女性、23歳)**が2006年6月に自殺した。

2年生の担任として着任したこの教諭は、**二か月後に自殺した**。

報道によると、この教諭は**午前1時過ぎまで授業準備でパソコンに向かい、そのままソファで眠る日が続いた**。区教委によると、**ある保護者が4月中旬以降、連絡帳で次々苦情を寄せた**。「子どものけんかで授業がつぶれているが心配」「下校時間が守られていない」「結婚や子育てをしていないので経験が乏しいのでは」。他の保護者たちも校長室を訪ね、「子どもがもめても注意しない。前の担任なら注意した」と訴えた。

自宅で自殺を図ったが、未遂となった。母が精神科を受診させたところ、抑うつ状態と診断された。

自宅の風呂場で自殺を図ったのは、その2日後の夜。翌6月1日朝、病院で亡くなった。母がメモ帳に書かれた遺書を見つけたのは、死去2カ月たった昨年8月のことだ。「**無責任な私をお許し下さい。すべて私の無能さが原因です**」。

2010年、地方公務員災害補償基金都支部審査会が、自殺を公務外の災害とした都支部長の処分を覆し、公務災害と認める裁決をした。今回の裁決では、**学年が1クラスで、相談できる同僚がいなかったことや、担任6人のうち4人が異動で替わったばかりで相談しづらい状況だったことをあげ、支援が「不十分」だったと指摘している**。

相次ぐベテランの過労死

- 石川県野々市立小学校の山口聡美教諭(女性、51歳)は、5クラスある1年生の学年主任を務めていた。2015年の夏以降、担任2人の産休などで残業や自宅での仕事が重なり、土日も学校に行くことがあった。2015年1月20日、校内での研究会中に倒れて意識不明となり、2月3日に死亡した(くも膜下出血)。
- 大分県の公立中学校の女性教諭(46歳)が2014年7月、授業中に「頭が痛い」と訴えて倒れ、その後9月に亡くなった。2017年6月に地方公務員災害補償基金県支部が公務災害と認定した。教諭は全学年の国語と書写の授業を受け持ち、他に学力向上支援教員、学年主任、「地域協育」担当、バレーボール部顧問なども務めていた。地元の小学校でも国語を教え、放課後や休日は部活指導、会議の出張などに追われていたという。倒れる前の6月は115時間以上だった。

本日の内容

1. ファクトから見た現状の課題認識の共有

★学校はだれが、どのくらい忙しいのか (Who? How busy?)

★忙しいとしても、それはよくないことなのか? (So what?)

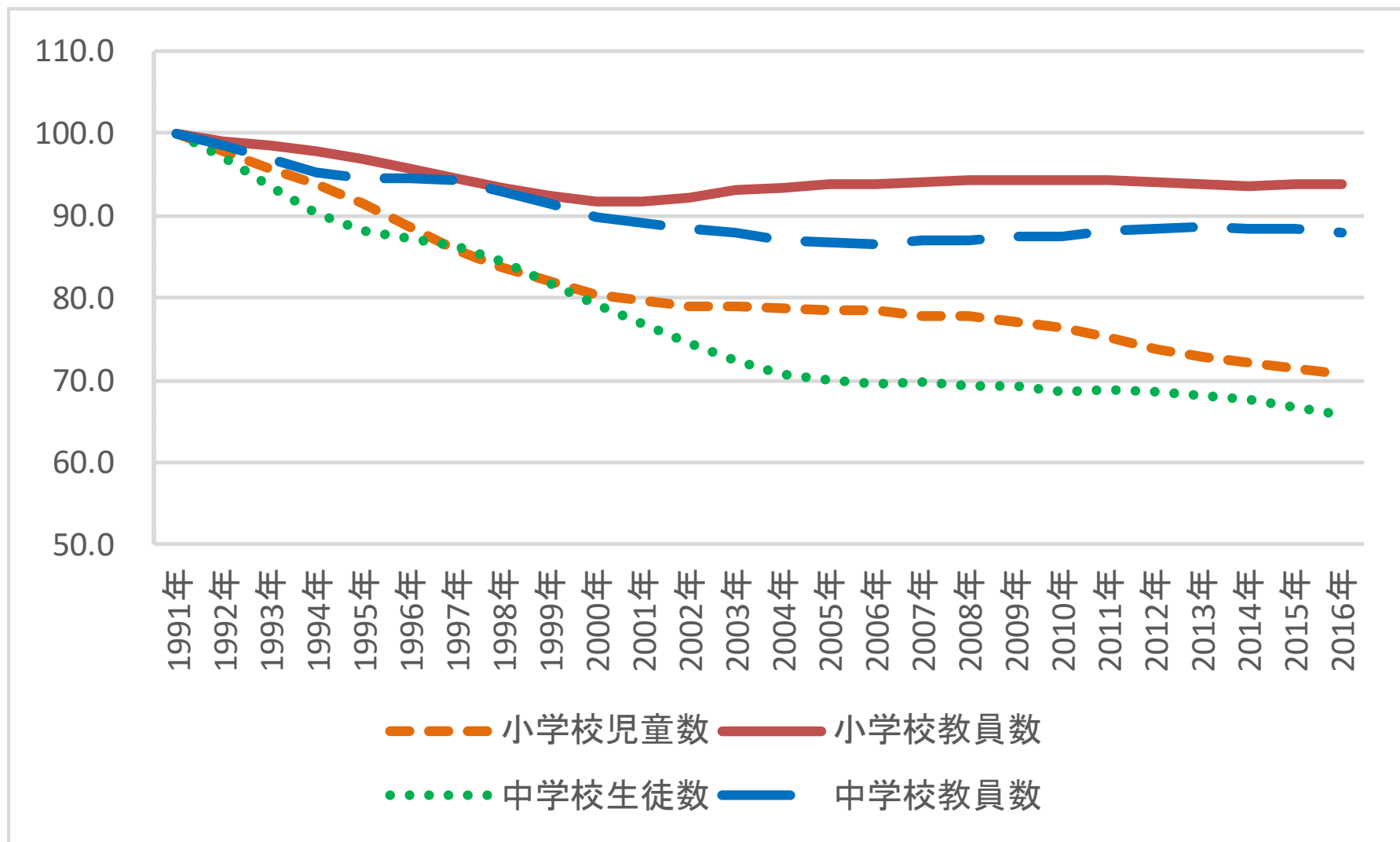
2. 今後の国・地方教育委員会等における施策の提案

★どうしていけばよいのか? 何から始めるか?
(What and How?)

論点① 教員定数を改善できたら、多忙は解消するのか？

⇒教員数(常勤のみ)は少子化の割には減っていないが、多忙化は加速

小学校、中学校の児童生徒数と本務教員数の推移(1991年=100としたとき)



国・教委への提案① 教員定数改善だけで解決する問題ではない。しかし、これだけ倒れる、授業準備できない教員が多数いるのだから、労働問題かつ教育問題。

1. 教員が人間らしく働ける労働環境の整備としての教員定数改善

- 平たくいえば、せめて、まともな休憩時間をとれる学校にしましょう、自分の子どもの面倒もみれる仕事にしましょう。
- 仮に、教員定数改善がむずかしい場合、教師業務アシスタント(岡山県等の先行事例あり)の拡充や事務職員加配等 ⇒ 教員でなくてもできることは離す！
※教職員の業務調整を行う職員室コーディネーターとして事務職員が活躍してほしい。

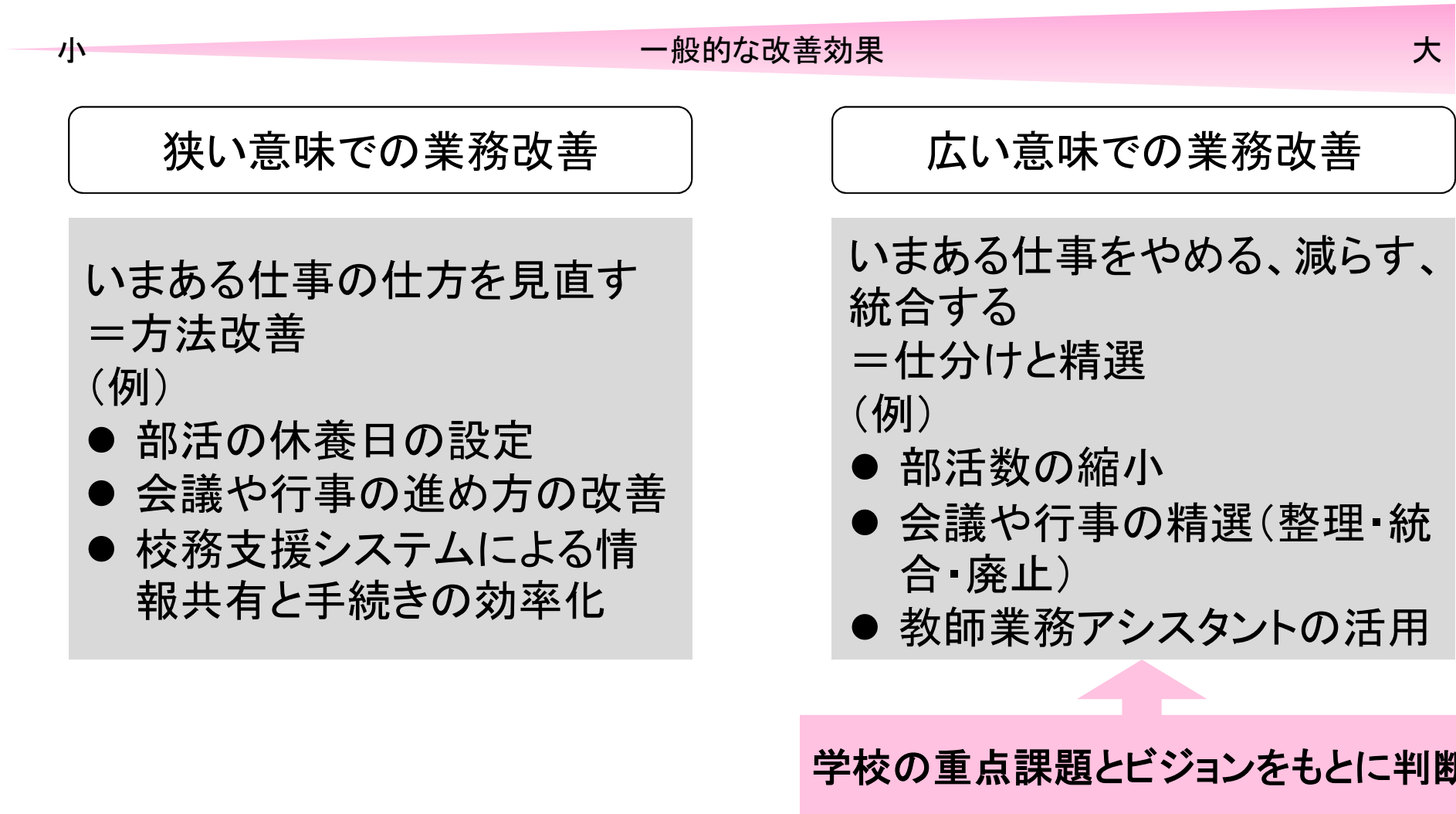
文科省は厚労省等とも連携して、30年度予算要求へ

2. 21世紀を生き抜く子どもたちのために、授業をよりよくしていくための定数改善

- 小学校は、1人の担任が10～11教科教え、生活指導や家庭へのケアまで行うのは、授業の質の向上の点でも、限界。せめて複数教科の担任制(2～3人で学級担任)としては？
- 小中では、各教員がもつ授業コマ数の実態調査を(特別活動等も含め)
⇒ 授業準備ができるコマ数へ上限規制を。
- 小中高とも、教科指導を行わない、生活指導(生徒指導)専任と進路指導・キャリア教育専任を拡充できないか？ 今は一人があらゆることをやっている。

35人学級の実現よりも、持ちコマ数削減に優先順位を。

論点② 狭い意味だけの業務改善(=方法改善)では、限界があるのは明らか



学校が担っている業務量が多岐にわたり、大量にあることにメスを入れる

⇒ では、いまは何に時間がかかっているのか？

⇒ 授業、授業準備、生徒指導・集団(給食、清掃等)、部活動、成績処理など

教諭の1日当たりの学内勤務時間(持ち帰り時間は含まない。)の内訳(平日)

時間:分

	小学校			中学校		
	平成18年度	平成28年度	増減	平成18年度	平成28年度	増減
a 朝の業務	0:33	0:35	+0:02	0:34	0:37	+0:03
b 授業	3:58	4:25	+0:27	3:11	3:26	+0:15
c 授業準備	1:09	1:17	+0:08	1:11	1:26	+0:15
d 学習指導	0:08	0:15	+0:07	0:05	0:09	+0:04
e 成績処理	0:33	0:33	±0:00	0:25	0:38	+0:13
f 生徒指導(集団)	1:17	1:00	-0:17	1:06	1:02	-0:04
g 生徒指導(個別)	0:04	0:05	+0:01	0:22	0:18	-0:04
h 部活動・クラブ活動	0:06	0:07	+0:01	0:34	0:41	+0:07
i 児童会・生徒会指導	0:03	0:03	±0:00	0:06	0:06	±0:00
j 学校行事	0:29	0:26	-0:03	0:53	0:27	-0:26
k 学年・学級経営	0:14	0:24	+0:10	0:27	0:38	+0:11
l 学校経営	0:15	0:22	+0:07	0:18	0:21	+0:03
m 会議・打合せ	0:31	0:24	-0:07	0:29	0:25	-0:04
n 事務・報告書作成	0:11	0:17	+0:06	0:19	0:19	±0:00
o 校内研修	0:15	0:13	-0:02	0:04	0:06	+0:02
p 保護者・PTA対応	0:06	0:07	+0:01	0:10	0:10	±0:00
q 地域対応	0:00	0:01	+0:01	0:01	0:01	±0:00
r 行政・関係団体対応	0:00	0:02	+0:02	0:01	0:01	±0:00
s 校務としての研修	0:13	0:13	±0:00	0:11	0:12	+0:01
t 会議・打合せ(校外)	0:05	0:05	±0:00	0:08	0:07	-0:01
u その他の校務	0:14	0:09	-0:05	0:17	0:09	-0:08

※勤務時間については、小数点以下を切り捨てて表示。

※平成18年度は、第5期の集計結果と比較。平成18年度は、「勤務日」のデータと比較。

※「教諭」について、平成28年度調査では、主幹教諭・指導教諭を含む。(主幹教諭・指導教諭は、平成20年4月より制度化されたため、18年度調査では存在しない。)

国・教委への提案② 教員が手を放してもよい仕事を発信・共有する。 ⇒ 優先順位ではなく、劣後順位を明確に！

■ “指導文化” (指導という名のもとに実に多くのことが教員、とりわけ学級担任)の仕事になっている。

⇒たとえば、給食、清掃、昼休みの見守りどこまで必要か？

- 毎日掃除やれ、とは学習指導要領のどこにも書いていない。
- 地域協働は、教員の負担軽減のためにあるのでは決してないが、一部、支援できる可能性は高い
- 学校の責任範囲をどこまで求めるか
例：給食中の事故、下校途中で万引き

■ 聖域なく、見直し・改善を

- 指導要録、通知表の簡素化できないか？

表については、国立教育政策研究所『学校組織全体の総合力を高める教職員配置とマネジメントに関する調査研究報告書』2017年3月

【表9 諸外国における教員の役割】

業務	象限		I				II		IV	
	国名	業務	アメリカ	イギリス	中国	シンガポール	フランス	ドイツ	日本	韓国
児童生徒の指導に関わる業務	登下校の時間の指導・見守り		×	×	×	×	×	×	△	×
	欠席児童への連絡		×	×	○	○	×	○	○	○
	朝のホームルーム		×	○	○	×	×	×	○	○
	教材購入の発注・事務処理		×	×	△	×	×	×	△	×
	成績情報管理		○	×	△	○	○	○	○	○
	教材準備 (印刷や物品の準備)		○	×	○	○	○	○	○	○
	課題のある児童生徒への個別指導, 補習指導		○	×	○	○	○	○	○	○
	体験活動の運営・準備		○	×	○	○	○	○	○	○
	給食・昼食時間の食育		×	×	×	×	×	×	○	○
	休み時間の指導		○	×	○	△	×	○	○	○
	校内清掃指導		×	×	○	×	×	×	○	○
	運動会, 文化祭など		○	○	○	○	×	○	○	○
	運動会, 文化祭などの運営・準備		○	○	○	○	×	○	○	○
	進路指導・相談		△	○	○	○	×	○	○	○
	健康・保健指導		×	×	○	○	○	○	△	○
	問題行動を起こした児童生徒への指導		△	○	○	○	○	×	○	○
	カウンセリング, 心理的なケア		×	×	○	○	○	×	△	×
	授業に含まれないクラブ活動・部活動の指導		△	×	○	△	×	△	○	△
児童会・生徒会指導		○	○	○	×	×	○	○	○	
教室環境の整理, 備品管理		○	×	△	○	○	○	○	○	
学校の運営に関わる業務	校内巡視, 安全点検		×	×	○	×	×	○	△	×
	国や地方自治体の調査・統計への回答		×	×	△	×	×	○	△	×
	文書の受付・保管		×	×	△	×	×	○	△	×
	予算案の作成・執行		×	×	×	×	×	○	×	×
	施設管理・点検・修繕		×	×	△	×	×	×	×	×
	学納金の徴収		×	×	○	×	×	○	△	×
	教師の出張に関する書類の作成		×	×	△	×	×	○	×	×
	学校広報 (ウェブサイト等)		×	×	△	×	×	○	○	×
	児童生徒の転入・転出関係事務		×	×	○	×	×	×	△	×
外部対応に関わる業務	家庭訪問		×	×	○	×	×	×	○	△
	地域行事への協力		○	○	△	×	○	×	△	△
	地域のボランティアとの連絡調整		×	×	△	×	×	○	△	×
	地域住民が参加した運営組織の運営		△	×	×	×	×	△	△	×

※教員の「担当とされているもの」に○を、「部分的にあるいは一部の教員が担当する場合があるもの」に△を、「担当ではないもの」に×を付けている。三か国以上の国で△又は×が選択されている業務をグレー表示している。全部で40業務設けたが、「出欠確認」、「授業」、「教材研究」、「体験活動」、「試験問題の作成, 採点, 評価」、「試験監督」、「避難訓練, 学校安全指導」、「出欠確認」、「授業」等全ての国で「担当とされているもの」7項目は掲載していない。

国・教委への提案③ 今の業務・行事等の手順・プロセスを洗い出し、必要性が薄いもの、時間対効果が薄いもの等を可視化し、カイゼン案を練る

⇒ 教職員による知恵＋外部コンサルタント等によるファシリテート・助言を

